

令和7年3月18日

令和6年度 府中市立府中第二中学校 学校経営方針「報告」

府中市立府中第二中学校
校長 成清 敏治

【東京都教育施策大綱（「未来の東京」に生きる子供の姿）】

- 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる
- 他者への共感や思いやりをもつとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

○東京都教育ビジョン（第5次）に基づいた施策・活動を実施した。

【第3次府中市学校教育プラン】

○基本理念

全ての子供が、人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長していくために、教育委員会、学校、家庭、地域、関係機関が相互に連携、協力、役割分担、支援しながら子供たちの育成を担っていく

○目指す人間像

【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人

【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚をもち、社会に貢献しようとする人

【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人

○第3次府中市学校教育プランの基本理念を踏まえ、教育活動の実践を推進した。目指す人間像も経営方針に反映させ、各学年で発達段階に沿った活動を計画し、生き方指導として実施した。全生徒の95%以上が、自分及び他の人の大切さを認めた行動を肯定的に回答している。

【府中第二中学校の教育目標】

○人間尊重の精神を基調として、多様化・国際化する現代にあって、自らを高め、互いに助け合い、人間性豊かな未来社会の担い手を育てる

☆よく見、よく聞き、深く考え、積極的に活動する態度を身に付けさせる

☆思いやりのある豊かな心を培う

☆ものごとをやりぬく強い意志とたくましい体を育てる

【各教科等教育指導ビジョン（重点的に育みたい資質・能力）】

○社会生活における課題や問題を自ら発見し、他者と協働して解決しようとする態度や新たな考えを創造し実行しようとする力

○本校の教育目標については、生徒・保護者の評価アンケートの肯定的評価が50%前後であることを踏まえ、今年度、学校運営協議会での協議等を通じて、教育目標の変更を行うこととした。令和7年度より新しい教育目標を、「自分らしく しなやかに たくましく」にする。

1 学校経営方針

公立学校義務教育の果たす役割・使命を踏まえ、こども基本法の理念、府中市教育委員会第3次府中市学校教育プランに基づき、本校の教育目標の実現に向けて、保護者や地域の信託に応える教育活動の推進を図る。そのために「徹底した対話に基づく共感」と「納得し理解できる指導」を基盤として、以下に「めざす学校像・生徒像・教職員像」を示し、具体策の方針を掲げる。

- 生徒・教職員がともに信頼関係に基づき活動し、人間性を磨きあえる、楽しく魅力ある笑顔満開の学校
- 心身を鍛え、学ぶ意欲をもち、自身の未来を切り拓き、困難に負けずしなやかに生きる生徒
- 謙虚で誠実であり、生徒の能力を引き出し、自身の能力をどこまでも高め続ける教職員

○指導に当たっては、「対話」と「納得」を重要視した。自己申告面接でも徹底した。しかし生徒アンケート「学習や生活で悩んだとき、学校に相談できる先生がいるか」との肯定的回答が約75%であり、さらに対話と納得を徹底する必要がある。生徒と教員の結果（肯定的100%）が異なる状況であることを全教職員が理解し、どこに課題があるか分析する。

2 教育目標を達成させるための具体策

(1) 地域・保護者との連携、社会に開かれた学校の推進

- (ア) コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と協働し、学校運営の課題を共有し、学校・家庭・地域の理想的連携を目指して諸活動に取り組む。
- (イ) スクール・コミュニティ協議会（地域学校協働本部）と連携し、地域行事への参加やボランティア活動など、地域と生徒が協働して活動する機会を設け、地域人材や施設の有効活用を推進する。

○令和6年度、コミュニティ・スクールとスクール・コミュニティ協議会の業務棲み分けを行い、生徒ボランティア運営を受けもつ組織（地域学校協働本部）が機能した。生徒アンケートの「地域に関心をもち、地域のために関わろうという気持ちがあるか」の肯定的回答が70%であるので、さらに地域との連携を深め、地域行事等に参画できるよう協力していく。

- (ウ) PTA活動等との連携を図るとともに、保護者との連携を緊密にし、教育相談体制の確立を図る。
- (エ) 学校評価アンケート結果を活用して、地域や保護者、生徒の評価を生かした学校改善に取り組む。
- (オ) 学校行事や公開授業の案内、各種たよりの発行やホームページの広報活動等を充実し、地域や保護者へ教育活動の理解促進を働きかける。

○保護者とは綿密に連携を取り、生徒の情報共有を行い、ともに成長を見守る体制づくりを行った。教育相談にも寄り添う姿勢をもち、学校での解決が難しい場合には、関係機関を紹介した。さらなる保護者や関係機関との連携を推進していく。

○情報発信等については、スマート連絡帳とホームページを基本とし、紙ベースの配布物を少なくした。ただし、未読の方も多く、PTA中心に呼びかけが必要と思われる。

(2) 学習指導

(ア) 指導方法の工夫や改善、補習や家庭学習の習慣化を通して、基礎的・基本的な内容を習得する。3年間を見通した系統的・計画的な指導を行い、プロセスを重視した評価を推進する。

(イ) 適正な評価規準の設定と観点別評価・評定の精度を高め、学期ごとに検討・検証する。

- 学習指導要領の目標に準拠した学習活動、学習評価を行った。
- 観点別評価・評定の精度を高めるため、各学期に項目割合を検討する機会を設け、教科間の差をできる限り是正した。「学びに向かう力・人間性等」の評価内容について検証し、授業改善の視点を明確にし、指導と評価の一体化を推進することが課題である。

(ウ) タブレットを活用した授業を推進し、生徒の可能性を伸ばす個別最適かつ協働的な学びを実現する。

(エ) 学校司書の支援を得ながら、新聞づくりや新聞を活用した教育活動の推進に努める。

- 「授業改善推進拠点校」として、授業改善を常に意識し、タブレット端末を活用した指導の工夫や課題の提示等を行い、個別最適な環境づくりを行った。来年度に向け、授業改善を定着させていく。協働的な学びについては、「授業の中で考えたり、話し合ったりする場面を取り入れている」との肯定的回答が95%を超えており、授業の工夫改善が行われている。
- 表現し、まとめる方法として、新聞づくりを積極的に行った。図書司書の支援もいただき、各行事の新聞づくりを充実させることができた。

(3) 生徒指導

(ア) 生徒の発達段階を見据え、3年間を見通した指導と全教職員が同一の姿勢で生徒指導に取り組む。

(イ) 生徒理解に基づく先手（予防）の支援を行い、事故の未然防止を徹底し、日常生活の危険を回避させる力を身に付ける取組を行う。

(ウ) セーフティ教室や性教育等の講演を通して、生徒の健全育成を図り、人権意識を高める。

- 生徒指導提要（令和4年12月改訂）や文部科学省通知で根拠を踏まえた指導を行った。時代の変化が激しい中、教員の勘や前例踏襲の指導をなくし、丁寧に説明できる指導を行った。
- 先を見通した指導を行い、トラブルを未然に防ぐことを目標に、最小限の対応で済むよう、事前の対応に全力を注ぎ、大きな事故は起きなかった。初期対応が大事さを全教職員に伝え、学級・学年を風通しの良い環境へ変化させることができた。教員のアンテナをどう張り巡らせるかが課題である。

(エ) 安全・防災対策委員会、食物アレルギー対策委員会を設置し、危機管理マニュアルを随時更新し、生徒への安全意識を高める取組を計画的に行う。

(オ) 府中第二中学校いじめ防止対策委員会を設置し、いじめの未然防止・早期発見・対応を組織的に行う。

(カ) 児童相談所、教育センター、みらい、はばたき等と連携し、健全育成を推進する。

○各対策委員会で生徒一人一人の把握に努め、重大事案にならないよう最大の配慮を行う。ケースによっては、担任や学年で抱え込まず、管理職を含め広く生徒の状況を把握し、的確に外部機関につなげることを優先した。情報共有の場を多くつくり、一人も取り残さない生徒指導を実施することができた。

(4) カリキュラム・マネジメント

(ア) キャリア教育・進路指導

- ① 3年間を見通したキャリア教育を計画・推進し、自己実現を図る取組を実施する。
- ② 個々に応じた進路学習を充実させ、進路情報等を的確に提供し、自ら進路を切り拓く力を育成する。

○ 3年間を見通したキャリア教育のテーマ ① 1年：自分を知り、他者を知る ② 2年：他者を知り、社会を知る ③ 3年：社会を知り、自分の進路を切り拓く に基づき、各行事を計画し、実施した。来年度も継続して、系統的・計画的な行事の運営を実施していく。

(イ) 特別の教科 道徳

- ① すべての教育活動を通して道徳的実践力の育成を図る。また、多面的に評価できるような情報の蓄積を図り、自尊感情・自己肯定感を高める評価を行い、道徳性や人間形成力を高める。

(ウ) 総合的な学習の時間

- ① 自分で課題を見つけ、よりよく課題を解決し、様々な体験活動や自己実現の活動を通して、自己の生き方を考え、未来を切り拓くための資質・能力を育成し、課題解決力や未来開拓力を高める。

○ 「生き方指導」を軸に、自身の生き方を問う取組を推進した。カリキュラム・マネジメントを効果的に行い、各教科で身に付けた「見方・考え方」を総合・探究させ、生きる力を身に付けさせていきたい。

○ 道徳や総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、目標に応じた力を身に付ける取組を行った。生徒アンケートの「いじめが怒らぬように努めているか」には、95%以上が肯定的な回答をしている。

(エ) 学年経営・学級経営、特別活動等

- ① 円滑な学級活動のために必要な役割である当番活動、係活動等を通して、生徒の自主性を育成する。
- ② 学校行事における練習・実践を通し、体験的な活動の充実、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ③ 部活動を充実させ、学校生活への意欲が高まるよう意図的・計画的に生徒の健全育成を図る。
- ④ SDGs の視点で日常生活を見直し、世界を意識し身の回りで協働しながら実践できる取組を推進する。

- 当番活動や係活動は、各学年で工夫を凝らし、生徒にとって成長につながる取組を行った。自分及び他の人の大切さを認めた行動を肯定的に回答している割合が95%であるのは、大きな成果である。
- 「府中二中 SDGs」を軸に、身近な取組から世界を考える視野の広い生徒の育成に努めた。あらゆる機会を通して、世界的な課題を身近な出来事に捉え直し、生徒に持続可能な未来を考えさせる時間をつくった。

(5) 特別支援教育の充実・推進

- (ア) 特別支援学級教員と綿密に連携しながら、学年・学級経営を円滑に進め、生徒の特性に応じた指導を的確に行う。また、通常学級との交流を適宜行っていく。
- (イ) 特別支援教育校内委員会を定期的に関き、生徒の情報を共有する。スクールカウンセラーやSSW、関係機関と連携し、生徒の支援を組織的に行う。
- (ウ) ユニバーサルデザインによる教室環境整備を全校で行い、生徒が学びやすい環境の保持に努める。また、共生社会を目指すインクルージョンの構築に努める。

- 一人一人の特性に応じた支援を行うため、校内委員会等の充実に努め、生徒の困り感を自分事と捉えて対応を行った。「何でできない？」や「何でやらない」等の不適切な発言には気を付けるよう指導を徹底した。
- 教室環境整備については、全校で標準型を示し、柔軟に対応した。

(6) 不登校対策の充実

- (ア) 不登校対策コーディネーターを中心に不登校対策委員会を開き、情報共有や今後の対策について検討する。また、関係機関や専門家と連携して、生徒や保護者を支援するとともに、個々の状態を把握し、計画的に支援を行う。
- (イ) サポートルームの活用を推進し、不登校生徒の居場所づくり、学校・学級復帰に向けての支援を行う。

- 不登校生徒の状況を把握し、保護者と連携しながら効果的な支援になるよう努めた。生徒指導部会で不登校の状況を把握し、全教員にも周知徹底を図り、学校対応を考えていった。
- サポートルームの運営については、生徒指導部で計画を練り、適切な運営方針を定め、生徒や保護者に周知した。学級復帰の成果も出ているので、さらに継続して支援員と連携し、不登校の居場所になるよう努めていく。

(7) 学校施設の整備

- (ア) 学校の安心・安全確保の観点から、府中市教育委員会と連携し、施設・設備の改善と充実に努める。
- (イ) エコ活動を促進するため、電気や水道の節約・点検、リサイクル活動等の環境保護への意識を醸成する。

- 校内を見回りしながら、安全の確保に努め、異常を認めたらすぐに管理職へ報告する。
- 消灯・節約・節水等のエコ活動を推進し、生徒への声かけとともに、教職員が率先して行動を起こした。

(8) 学校教育の質的充実に向けて

- (ア) 小中一貫教育の推進を図り、学習活動や学力把握の連携、生活指導の連携をとる。
- (イ) 教育公務員の責務として、職務に専念し、法規を遵守し、サービス事故ゼロを達成する。
- (ウ) ワークライフバランスを推進し、校務の見直し・削減を検討・協議し、働き方改革を進める。
- (エ) 教職員自身が生徒の模範となる行動を意識し、すべての場面において「言行一致」を目指す。

- サービス事故はちょっとした油断で起こるので、いつも緊張感をもって職務に専念していただくよう指示を明確にし、校長連絡等で徹底した。
- 「働き方改革」は、物理的な側面だけではなく、効率的に校務改善する中で、質の高い教育活動を目指すために取り組むものであるとの教育哲学を徹底した。生み出した時間を子供が笑顔になる働きかけを心がけるよう指示している。